



[本校] 〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1
tel. 025-239-3111 fax. 025-239-3690
[新潟中央キャンパス] 〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7-1169
tel. 025-227-7111 fax. 025-227-7117
https://www.nuis.ac.jp somu@nuis.ac.jp



5月上旬、本学の卒業生で現在本学の非常勤講師もされている佐藤徳子先生が、情報センター脇の松の木で子育て中のトラフズクを発見しました。トラフズクは、「知恵や学問の象徴」「幸運を運んでくる」と言われているフクロウの仲間です。発見から1ヶ月ほどの間、幼鳥5羽の成長を学生や教職員が大切に見守りました。その愛くるしい表情や仕草は、見る者に幸せなやすらぎの時間を与えてくれました。素敵な時間を本当にありがとう。



松の木(写真中央)に営巣

編集部では表紙を飾る写真を募集しています! 投稿方法は nuischannel@nuis.ac.jp までお問い合わせください。

PHOTO: 河原 和好 准教授



NUISホームページ
<https://www.nuis.ac.jp>
(スマートフォン対応)



Facebookページ
<https://www.facebook.com/nuis.face>



Instagram



Twitter
[@nuis_nabbit](https://twitter.com/nuis_nabbit)



YouTube
公式
チャンネル

4カ国へ28人参加



越智敏夫学長が留学奨学金証書を
手渡しました

私が留学を決めたのは、英語力をもっと伸ばしたいと思ったからです。自分の考えや気持ちを英語で表現し、英語で人とコミュニケーションをとれるようになります。

国際文化学科 3年 猪飼 真央

ニュージーランドコース

2年間で中止されていた海外派遣留学が3年ぶりに再開されることになりました。令和4年度の派遣先はニュージーランド17人、韓国6人、中国4人、ラトビア1人の合計28人。コロナ禍や戦乱などの影響で、これまでのカナダコースが中止、アメリカはニュージーランドに、ロシアは同じロシア語圏のラトビアにそれぞれ変更され、中国へはやむなくオンライン留学となります。

6月22日に国際交流センターで開催された「壮行会」では、参加者全員の名前が読み上げられ、越智敏夫学長が代表者に留学奨学金証書を手渡しました。越智学長は「臆することなく積極的に学んできてほしい」と激励し、各コースの代表が「決意」を述べました。参加者は8月末から順次出発し、ホームステイや学生寮に滞在しながら4〜5カ月間の留学生活を体験する予定です。

りたいと思っています。留学では心配なことがたくさんあるでしょうし、ホームステイとなればさらに心配なことがあるかもしれません。しかし、留学は英語を学ぶだけでなく、異文化や現地の雰囲気を経験するとてもいい機会だと思っています。

もう一つ、ニュージーランドの魅力を実験することも楽しみにしています。ホームステイやワイカト大学での生活を通して、新しいことを学びたいと思います。また、現地の人と積極的に交流したいと思っています。4カ月のニュージーランド滞在は私にとって大きな挑戦かもしれませんが、英語力だけでなく人間的にも成長できる貴重な経験になると思うので、めげずに頑張っていきたいと思っています。

最後に、このプログラムを実現させてくれた本学とワイカト大学の全ての方々に感謝の気持ちを伝えたいと思います。



ニュージーランド ワイカト大学



ラトビア ダウガピルス大学



韓国 慶熙大学校



中国 北京師範大学

韓国コース

国際文化学科 4年 岩野 ひかる

私たちは、9月末から慶熙大学校に5カ月間留学します。新型コロナウイルスの影響で派遣留学は2年間で中止されましたが、今年度は実施するというお話を聞き、うれしかった半面、就職活動や卒業論文の執筆、サークルやゼミ活動のことを考えると不安が大きかったです。しかし、学生生活でやり残したことを考えたときに、真っ先に思い浮かんだのが留学でした。険しい道であるとしても、やりたいと思ったことには挑戦したい、後悔したくないという気持ちで留学を決意しました。

この機会を通して、さまざまなことに挑戦したいと考えています。

第一に聞き取る力、話す力の向上です。一人ひとりのレベルに合ったクラスでの毎日4時間の授業に加え、日常的に現地のネイティブな発音に触れることができますので、しっかりと吸収し、自身のスキルアップに努めたいです。また、慶熙大の学生がサポートしてくれる「トウミ制度」があります。授業などで分からないことを聞いたり、現地のことを教えてもらったりして、より韓国語や韓国文化への理解を深めることができると思います。

もう一つは、異文化理解です。現地学習や文化授業を通して、韓国の観光地訪問

木村 誠(経営学科・教授)

・(2022年6月11日) 日本システム・ダイナミクス学会JSDカンファレンス2022優秀発表賞「感度分析による顧客セグメント規模の推移予測」日本システム・ダイナミクス学会カンファレンス2022(専修大学・神田キャンパス)

3) 競争的資金獲得研究

木村 誠(経営学科・教授)

・(2019年4月より継続～2024年3月) 令和元年度科学研究費助成事業基盤研究(B)「破壊的イノベーション論とプラットフォーム論を統合したデジタル戦略論の展開」研究分担者

4) 委員・社会的活動・記事・その他

今井 裕紀(経営学科・講師)

・(2022年4月～2024年3月) 経営行動科学学会 理事
・(2022年4月～2024年3月) 『経営行動科学』編集委員

内田 亨(経営学科・教授)

・(2021年12月10日～22日) 「コロナ下の世界におけるワーク・ファミリー・コンフリクト(仕事と

家庭の葛藤)」新潟大学第13回U-goサロン「知のポットラックススペシャル2021」(オンライン)
・(2021年12月10日～22日) 「これからの水産加工企業の価値創造とは」新潟大学第13回U-goサロン「知のポットラックススペシャル2021」(オンライン)
・(2022年5月31日) 「在宅勤務によるワーク・ファミリー・コンフリクト(仕事と家庭の葛藤)」と会社による従業員への関与」新潟大学第15回U-goサロン「風薫る、U-goグラントの季節到来!」(オンライン)

小山田 紀子(国際文化学科・教授)

・(2022年4月15日) 書評「アルジェリアをめぐる記憶の承認—脱植民地化と『引揚者』を中心に—」(大鳥えり子著『旧植民地を記憶する』吉田書店)【週刊読書人】

木村 誠(経営学科・教授)

・(2022年4月1日より継続～2024年3月31日) 日本システム・ダイナミクス学会 理事(編集)

藤瀬 武彦(経営学科・教授)

・(2022年4月24日) 第77回いちご一会とちぎ国体パワーリフティング新潟県予選大会 審判及び陪審員(五泉市栗島ふれあい館体育館)
・(2022年5月14日・15日) 第96回北信越学生陸上競技対校選手権大会 副大会長(福井県営陸上競技場)



国際交流センターで開かれた壮行会で
派遣留学のメンバーが集合

ラトビアコース

国際文化学科 2年 井上 拓海

や普段は体験できないような文化体験をすることができると、とても楽しみです。また、各国の留学生と韓国語を用いて、積極的にコミュニケーションを取り、交流を深めていきたいです。新しい環境下で自身を成長させ、視野を広げるまたない機会と感じています。

この留学制度を支えてくださっているすべての方々に感謝し、本学の代表であるという自覚をもち、何ごとも全力で楽しみ、挑戦したいと思います。

私は今回初めて海外を訪れます。今回ラトビアに留学するのは私一人です。休憩時間でも部屋でも日本語で話ができる人はいません。言葉が通じることの不安は大きいですが、積極的にコミュニケーションをとって早く生活に慣れようと思います。

派遣留学で頑張りたいことは主に2つあります。1つは語学力の向上です。入学してからずっとロシア語を学んできました。

したが、ネイティブの発音やリスニングなどは、現地の人とたくさん会話することが上達の一番の近道だと思っています。交流をしながら話す能力と聞く能力を高め、基礎的な文法や会話表現なども覚え、少しでも使えるレベルを目指してやっていきたいです。

2つ目は異文化交流です。違う国の人と一緒に授業を受け、一緒に食事をしたるなかで、日本とは違う新しい発見をし、国や人に関心を持って学んでいきたいです。自分との違いを受け入れ、多文化を理解する心を忘れずに生活したいです。

もう一つ留学で楽しみにしているのは、ロシアの芸術に関する授業です。1年生の時にロシア語の授業でバレエを鑑賞しました。実際にバレエの映像を見てその美しさを感じ、さらに興味がわいたので、音楽と美術の授業を通してその奥深さを知りたいと思います。

現地では、大学や日本を代表して留学しているという気持ちを持てずに行動し、貴重な留学の経験を今後活かせるように学んでいます。帰国後は語学力を活かしてロシア語検定などに挑戦し、自分の可能性を広げていきたいです。留学は大学生の今しかできないことなので、思い切り楽しんで全力でチャレンジしていきます。

中国コース

国際文化学科 3年 伊藤 愛里

私たちは、北京師範大学に9月からオンラインの形で5カ月間留学します。私たちの派遣留学の準備を進めてくださっている関係者の方々に感謝を申し上げます。

私は「語学力の向上」と「視野を広げる」ために、留学を決意しました。この留学を通して、自分の語学力が現段階で

どのくらいなのか、海外の学生との交流を通じて知りたいと考えています。自身のレベルを知ったうえで実践的な授業に臨み、自分が向上させるべき力の習得につなげたいです。

今回はオンラインでの実施となり、現地留学することが出来ず、直接中国文化に触れる機会がありません。そのため一つひとつの授業がとても重要で、限られた時間の中で積極的に学び、多くのことを吸収したいです。

私の現段階での目標は、中国に進出している企業や中国と関わりのある企業で働き、中国とつながっていくことです。そのため、私はこの機会を活かして、語学力の向上とともに、さまざまな国の学生と交流して視野を広げ、自分の将来の目標をさらに明確にしていきたいと考えています。

北京師範大学には、世界各国から多くの学生が留学に参加します。コロナウイルスの感染が拡大している状況下で、日本にいながら海外の学生と共に学ぶことのできる貴重な機会です。このような経験ができることに感謝し、自分自身がよりいっそう成長できるよう、精一杯努力していきます。

2022年度のスケジュール表(出発順)

国名/留学大学	留学期間	参加人数
ラトビア ダウガピルス大学	2022年 8月25日～12月27日	国際文化学科 2年 1人
中国 北京師範大学	2022年9月1日～ 2023年1月31日	国際文化学科 2・3・4年 4人
ニュージーランド ワイカト大学	2022年9月17日～ 2023年1月22日	国際文化学科 2・3・4年 17人
韓国 慶熙大学校	2022年9月26日～ 2023年2月27日	国際文化学科 2・4年 6人
参加学生数合計		28人

教員の活動 (本人申告による)

1) 研究論文・図書

今井 裕紀(経営学科・講師)

・(2022年3月)「職務要求がアスピレーションの下方修正を介して抑うつに与える影響—個人資源と職務資源の調整媒介効果—」慶應経営論集第38巻第1号 (43～59頁)

内田 亨(経営学科・教授)

・(2022年4月) マニエー渡邊レミー、ベントン・キャロライン、内田亨、オルシニ・フィリップ、マニエー渡邊馨子 共著「強制的テレワークにより従業員が受けた影響」秋山肇編『ポスト・コロナ学—パンデミックと社会の変化・連続性、そして未来』(54～73頁)

梅原 英一(情報システム学科・教授)

・(2022年5月) "A Game Theory Investigation of Contract Between IT Vendor and User in Problems of Information System", 『Systems Research II』, Springer (227-240)

佐々木 宏之(経営学科・教授)

・(2022年3月)「養育に関するメッセージ・フレーミングと制御適合」慶應経営論集第38巻第1号 (61～75頁)

アレクサンドル・ブラーソル(国際文化学科・教授)

・(2022年4月)「足利政権の衰退」Vostochnaya kniga 出版 (ロシア) (288頁)

矢口 裕子(国際文化学科・教授)

・(2022年5月) "Anais Nin's Paris Revisited: The English-French Bilingual Edition" eBookIt.com (235頁)

2) 学会・研究会・講演等

内田 亨(経営学科・教授)

・(2021年7月29日) Remy Magnier-Watanabe "Antecedents of Subjective Well-Being at Work: The Case of Japanese Regular Employees", Academy of Management Proceedings (Arizona State University, Online)

・(2021年10月2日)「水産物の認証の可能性：フランスの水産加工企業A社の事例から」日本情報経営学会第82回全国大会 (名古屋大学・オンライン)

梅原 英一(情報システム学科・教授)

・(2022年6月14日～17日) 細川 連「新聞メディアと株式掲示板を用いた日経VI指数予測」2022年度 人工知能学会全国大会 (国立京都国際会館)

オーストラリアからこんにちは！

こんにちは。私は「トビタテ！留学JAPAN」第14期生に選ばれ、今年の2月から、オーストラリアのニューカッスル大学で学んでいます。

「トビタテ！留学」は、官民が協働して学生の留学を支援する給付型奨学金制度です。また、「トビタテ！」

の最大の魅力は、全

「持続可能な観光」テーマに国費留学

国から参加する14期生、留学を果たした先輩方、支援企業の皆さまと交流ができることです。地域や学問の垣根を越えてさまざまな目的を持った方々に出会うことができました。

現地では美しい自然に囲まれながら、所属研究室での授業や交流会、また、親日の学生と交流するサークル

ルなどいろいろな活動に参加しています。私は「持続可能な観光」をテーマにこの留学に参加しているため、ニューカッスル大学周辺の観光地についてもフィールドワークをしています。留学前に、「トビタテ！」に応募して「何をしたいのか」ということをよく考えて、具現

化できたことも大切な時間でした。現地に來てからは、積極的に行動し、つかみに行く姿勢を忘れず、素直な気持ちで楽しむことを心がけています。

私自身、留学したい、でもできない期間を受け入れることは容易ではありませんでした。しかし、そんな



大学のサポートメンバーたちと Anna Bayビーチで(右端が野澤海乃さん)

時間を過ごしていく上で、自分自身の目標や目的を考えることができました。それらは誰と比べるものでもありません。自分自身でさまざまな人と対話しながら構築していく、そのような恵まれた環境が、本学にはあるのではないかと感じています。

(国際文化学科 3年 野澤海乃)

全日本大学生中国語コンテスト

6月18日に早稲田大学で開催された第3回全日本大学生中国語スピーチコンテスト並びに第21回「漢語橋」世界大学生中国語コンテスト日本予選の決勝大会に、東北・北海道ブロックの代表として出場してきました。

全国4ブロックの予選を勝ち抜いてきた19人が東京の決勝大会に出場し、ハイレベルな戦いとなりました。



決勝戦でスピーチする 古関里桜香さん

私は「漢語橋」世界大会への参加希望者のテーマである「天下一家(One World, One Family)」のスピーチをしました。

前日まで大学やzoomで先生にご指導いただきながらスピーチを練習し、大会に向けて二人三脚で取り組みました。大会ではスピーチの他

「天下一家」のスピーチで優秀賞

に中国百科知識クイズや中国文化関連の特技披露が必要だったため、鑑真が来日のきっかけとなった詩の一説「山川異域 風月同天」を習字で披露しました。その結果、優秀賞を受賞することができました。

今大会を通じて、日常の枠を超え

て挑戦することの大切さを学びました。全国各地から集まった同世代の参加者の発音やスピーチの表現力のレベルの高さを目の当たりにし、「もっと上手に中国語を話せるようになりたい」と大きな刺激を受けました。また対面方式での開催により、他の参加者と交流をしながら留学や中国文化に関する話ができ、大学にいる

だけでは得られない刺激を受け、交流ができた貴重な経験となりました。スピーチの指導だけでなく東京まで応援に駆けつけて下さった先生、そして支えて下さった全ての方に心から感謝しています。谢谢。

(国際文化学科 4年 古関里桜香)

韓国交換留学を終えて

私たち4人は2022年2月4日から6月30日まで、ソウルにある光云大学校で交換留学生として過ごしました。コロナ禍のため韓国に着いてから10日間の隔離を経

てから、カリキュラムへの参加となるなど、韓国では多くの感染者がおり生活に支障がある中での滞在となりました。

そんな中で学校が始まり、外国人向けのカリキュラムではライティングや発表・討論を学び、韓国人の学生と同様に受ける授業では、4名それぞれが受けた授業を選択し、受講しました。

最初のうちは韓国語に耳が慣れず大変でしたが、聞き覚えのある単語が出たり、新しい単語を知

異文化に触れて学ぶ楽しさ実感

光云大学校での4カ月

私たちが韓国に到着してから10日間の隔離を経た後、カリキュラムへの参加となるなど、韓国では多くの感染者がおり生活に支障がある中での滞在となりました。

そんな中で学校が始まり、外国人向けのカリキュラムではライティングや発表・討論を学び、韓国人の学生と同様に受ける授業では、4名それぞれが受けた授業を選択し、受講しました。

最初のうちは韓国語に耳が慣れず大変でしたが、聞き覚えのある単語が出たり、新しい単語を知

ることができ、とてもいい経験になりました。留学をした経験を通じて、自分の韓国語力を磨いていきたいと思っています。

光云大学校図書館前の佐藤陽美さん



光云大学校図書館前の佐藤陽美さん

(国際文化学科 3年 佐藤陽美)